

平成23年度教育行政の点検及び評価（概要版）

I 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会の主な動向

① 教育委員、教育長の在任状況 (H24.4.1現在)

職名	氏名	年齢	職業	就任年月日	任期	保護者
委員長	笠見 幸子	64		H21.12.21	H25.12.20	
委員長職務代行者	中島 諒人	46	演出家	H20.10.26	H24.10.25	◎
委員	岩田 慎介	54	会社役員	H20.10.15	H24.10.14	◎
委員	坂本 トヨ子	58	会社役員	H22.12.23	H26.12.22	
委員	若原 道昭	65	大学長	H23.12.27	H27.12.26	
教育長(委員)	横濱 純一	58		H22.4.1	H26.3.31	

(ア) 委員の異動

平成23年12月26日をもって山田修平委員が退任となり、同年12月27日に若原道昭氏が委員として任命された。

(イ) 委員長の異動

平成24年1月13日をもって笠見幸子委員長が任期満了となり、同年1月14日に再任された。

② 教育委員会の会議の開催回数 ※日時・提出議案等は参考資料参照。 () は22実績

会議名	回数	備考
教育委員会	12 (12) 回	議案 46(48)件, 報告事項 153(127)件, 協議事項 5(3)件
委員協議会	14 (11) 回	協議題 45 (44) 件
委員研修会	7 (5) 回	研修題 10 (7) 件

③ 教育委員会の会議の公開状況

(ア) 傍聴者数：4人、傍聴者が1人以上だった会議回数：3回

(イ) 議事録の公開状況：ホームページにおいて、詳細な議事録を公開している。

④ その他

(ア) 教育委員による学校等訪問 8箇所

- 第1回 伯耆町立岸本小学校 (H23.6.30) …施設見学、教職員、学校支援ボランティア等との意見交換会
- 第2回 鳥取市立湖東中学校 (H23.9.13) …施設見学、授業参観、教職員等との意見交換会
- 鳥取緑風高等学校
- 第3回 倉吉市立西中学校 (H23.9.28) …施設見学、授業参観、教職員との意見交換会
- 米子市立後藤ヶ丘中学校
- エキスパート教員の公開授業視察 …米子東高等学校 (H23.11.11、H23.11.25)
- 湯梨浜町立東郷小学校 (H23.11.22)
- 鳥取市立醇風小学校 (H24.1.23)

(イ) 視 察 9箇所

- H23.6.30 岸本小学校
- H23.9.13 湖東中学校、鳥取緑風高等学校
- H23.8.8、H23.9.6、H23.10.16、H23.10.17
- 鳥取西高等学校整備に係る視察(神奈川県、滋賀県、兵庫県、鳥取西高等学校)
- H23.9.28 倉吉市立西中学校、後藤ヶ丘中学校

(ウ) 意見交換会 4回

- H23.8.16 知事と教育委員の意見交換会
- H24.1.18 中国五県教育委員会委員全員協議会
- H24.2.9 スクールサポーターに関する公安委員会との意見交換会
- H24.3.28 知事との意見交換会

(エ) ホームページを通じた教育委員リレーコラムを実施

- ・「母からのメッセージ「次世代の幸せのために」」(坂本委員：H23.6.7)
- ・「健全なる精神は健全なる身体に宿る」(笠見委員長：H23.8.29)
- ・「心のコップ」(山田委員：H23.8.29)
- ・「スタンフォード白熱教室」(中島委員：H23.9.26)
- ・「議論することの大切さ」(岩田委員：H23.11.28)
- ・「工業デザイナー・秋岡好夫展覧会」(坂本委員：H23.12.27)
- ・「まず、健康!!」(笠見委員長：H24.1.26)
- ・「はじめまして」(若原委員：H24.2.29)
- ・「コラム」(中島委員：H24.3.29)

(2) 教育委員会の活動に対する自己評価

都道府県及び市町村等に置かれる合議制の執行機関である教育委員会として、制度創設の「意義」や「特性」を踏まえ、その長所を生かし、短所を補う活動を行うことができたかどうかを以下の基準に照らして自己評価を行いました。

1 【意義】 政治的中立性、継続性、安定性の確保

【特性】 首長からの独立性、合議制（毎年1～2人の委員の任期到来）

評価の観点	評価	備 考
①教育行政に情熱と高い使命感をもって当たった。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県教育の充実発展を願い、委員会で議案、報告事項等の追認に終わることなく、資料の事前研修を行いながら質疑や討議を深め、納得の行く教育行政に努めた。 ・現場に向いて意見交換を行うなど、課題解決に真摯に取り組んでいる。
②政治的中立性、首長からの独立性を保ち、教育行政を推進した。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・政治的な圧力を受けたり、首長に束縛・支配を受けるようなことはなかった。 ・首長からの独立性を保ちながら対等な立場で、知事との教育振興協約を締結し、協約をてこに、各部局との連携を強化している。
③委員会運営は、公正な合議制で行った。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長として委員会の公正な運営、活性化に配慮した。 ・各委員が様々な視点から積極的に発言し、公正な判断ができるよう努めた。

2 【意義】 地域住民の意向の反映

【特性】 住民による意思決定（レイマン・コントロール）

評価の観点	評価	備 考
①学校現場の様々な教育課題や実情を的確に把握し、課題解決に向けて努めた。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に学校訪問、授業参観や研修会、スクールミーティング等に参加して実情を把握すると共に要望等は委員で共有し課題解決に向けて努めた。 ・日々変化する学校現場の実情把握は努力しているつもりだが、まだ把握しきれていない部分があり、解決への貢献度はまだまだ不十分である。
②県民の意思、考え方を尊重し、教育委員として議論を尽くす中で、教育行政の責任を果たすべく努力した。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の声を真摯に受け止めながら真剣に議論をしたが、県民がどんなことを本当に期待しているのか、様々な角度から更に追求していく必要がある。 ・鳥取の未来のために教育がどういう役割を果たすべきか、県内で広く議論を喚起することが必要だと感じる。 ・全県民の意思、考え方を尊重するのは限界があり、その中で意思、考え方の質、方向性を見極め、いかに有意義な教育議論が出来たか検証し、今後も責任を果たすべく努力したい。
③教育行政の実施に当たり、説明責任を果たした。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・会議中、広報、懇談会等で教育施策について機会あるごとに説明し関係者の理解と協力を求めた。重要なことは繰り返し説明し、趣旨徹底を図ることが大切である。 ・教育委員会全体として責任を果たしている。

評価	「評価の観点」に対する評価基準
◎	「評価の観点」に示された取組を「十分に行うことができた。」
○	「評価の観点」に示された取組を「概ね行うことができた。」
△	「評価の観点」に示された取組を「十分に行うことができなかった。」
×	「評価の観点」に示された取組が「ほとんどできなかった。」

II 平成23年度の取組についての点検及び評価

(1) 点検及び評価に当たって

鳥取県教育振興基本計画の6本の「施策の方向性」ごとに示された「目指すところ」や「施策目標」の推進に向けて、「平成23年度アクションプラン」を定め、取り組みました。

その取組状況を「H23成果と課題」及び「H24対応方針」としてまとめるとともに、各所属による自己評価と、教育関係者（市町村教育委員会や各学校、幼稚園・保育園、PTA）へのアンケート調査を行いました。そのアンケート結果等も踏まえ、以下に示す判断基準に基づき評価を行いました。

また、点検及び評価の客観性を確保するため、鳥取県教育審議会各委員の方々から様々な御意見や御助言をいただきとともに、これらを参考にしながら、今後の取組を進める上での対応方針を示しました。

- ①「自己評価」欄には各所属による自己評価を、「目指すところ」への到達状況と今までの取組により得られた成果を踏まえ、以下の判断基準に基づき「A～D」から選択した。

区分	各施策の「目指すところ」について
A	目的・目標を達成した。
B	ほぼ計画（予定）どおり推進している。
C	取組としてはやや遅れている（取組は進めたが、成果が出ていないものも含む）。
D	一層の（新たな）取組が必要。

- ②「関係者評価」欄には、中間評価の際に実施した「市町村教育委員会、学校、幼稚園・保育園、PTAアンケート」の実施結果を次の区分により記載するとともに、評価に対する対応等を記載した。

関係者評価	「大変効果があった」、「ある程度効果があった」という回答の割合（各団体ごとの回答結果の平均）	<アンケート評価項目>
a	75%以上	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大変効果があった ・ ある程度効果があった ・ あまり効果がなかった ・ 全く効果がなかった </div>
b	50%以上75%未満	
c	25%以上50%未満	
d	25%未満	

【概要】このアンケートは、平成23年度上半期の県教育委員会の取組の成果について関係機関・団体等から9月時点（10～11月実施）での評価を頂き、その結果を次の取組に繋げることを目的に実施したものです。

<回答状況>	市町村教育委員会	19 / 19 団体	小学校	130 / 139 校
回答 / 全体	中学校	47 / 60 校	高等学校	23 / 24 校
	特別支援学校	8 / 8 校	私立学校	8 / 9 校
	PTA役員	16 / 31 人	幼稚園・保育所	13 / 15 校

- ③「数値目標」欄には、数値目標の到達度を中心に、自己評価を行った。

区分	数値目標への到達度
「順調」	「数値目標」に到達できたもの
「概ね順調」	「数値目標」に確実に近づいているもの
「やや順調でない」	課題が少なからず有り、「数値目標」への到達がやや順調でない、又は、「数値目標」は到達したが、新たな課題が生じたもの
「順調でない」	課題が多く、取組に着手できなかったもの

④ 「自己評価結果」と「関係者評価結果」との相関関係

区 分		関係者評価結果				
		（「大変効果があった」、「ある程度効果があった」という回答の割合）				
		a 75%以上	b 50%以上	c 25%以上	d 25%未満	小 計
自 己 評 価 結 果	A 目的・目標を達成	1	—	—	—	1 < 1.5% >
	B ほぼ計画どおり推進	31	24	6	—	61 < 89.7% >
	C 取組がやや遅れている	1	4	—	1	6 < 8.8% >
	D 一層の取組が必要	—	—	—	—	— < —% >
	小 計	33 < 48.5% >	28 < 41.2% >	6 < 8.8% >	1 < 1.5% >	68

⑤ 「施策の方向性」別の評価一覧

1 生涯にわたって自ら学び、社会全体で子どもたちを育む体制づくり

(1) 社会全体(学校・家庭・PTAやNPOなど各種団体・企業・地域社会・行政)で取り組む教育の推進

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①社会全体で子どもたちを育む教育力の向上	B	a	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> 各種事業とも順調に実施中である。特に、家庭教育推進協力企業数も順調に増えており、家庭教育を支援する社会づくりは進んでいる。 青少年健全育成条例を予定どおり一部改正したが、効果の検証が未実施である。 						
②地域全体による学校支援	B	a	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> 「地域で育む学校支援ボランティア事業」を6月補正により実施した。現在、県下市町村に広まりつつある。 学校支援地域本部事業を実施しているのは6市町であるが、単県事業も始まり、鳥取県全体で学校支援ボランティアの取組を進めようという機運が高まっている。 各学校では、地元産業界や大学等と連携した教育活動を行っている。 学校支援に取り組む市町村が7市町に広がった。残り2町村にも理解を得るよう取り組む。 						
③学びの主体者を育成	B	c	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> 18市町において小地域懇談会（集落単位）が開催され、人権学習が行われている。事業見直しにより、H23年度から市町村人権教育行政担当者等を対象とした人権教育企画者の養成講座を廃止したが、公益社団法人鳥取県人権文化センター等と連携を図りながら、市町村の人権教育を支援したい。 小地区懇談会を実施できなかった市町村があった。県からの学習プログラムの提供がなくなったので、担当者会でプログラムを作成したり情報交換をしたりしながら効果的な啓発事業の推進に取り組む。 						

(2) 教育の原点である家庭教育の充実

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①家庭の教育力の向上	B	b	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の定着を図るため、「心とからだいきいきキャンペーン」の新たなキャッチフレーズとロゴマークを募集し、決定・周知した。 ・ 「子育て親育ちプログラム」は、作成・検証し、高評価を得ており、養成したファシリテータを今後派遣していく。 ・ 「子育て親育ちプログラム」の普及啓発までにはいかなかった。あらゆる機会を活用して周知に努め啓発を図ると共にプログラム拡充にも努める。 						
②社会全体による家庭教育の支援	B	c	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもへの影響が大きい就学前後の保護者を中心に家庭教育啓発が必要である。 ・ 計画どおりに事業を実施している。 						

(3) 活力ある地域社会をつくる生涯学習の環境整備と活動支援

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①生涯を通じて学ぶことができる環境づくりの推進・今日的課題について生涯学習機会の提供	B	b	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・ とっとり県民カレッジ主催講座の受講者数が昨年比で2割程度増加した。 						
②人権学習の推進	B	b	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村人権教育合同研究協議会を7町村で開催し、市町村の課題解決に向けた協議を実施した。 						
③読書活動の推進による知の地域づくり	B	a		B	a	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども読書支援者養成事業は順調に実施中である。今年度養成した子ども読書アドバイザーが読書ボランティアや保護者の研修会に出向き、地域での読書活動支援の輪が広がっている。 						
④公民館等社会教育施設の機能の強化と利用促進	B	c	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各市町村と連携した、継続的な公民館職員の資質向上のための研修が必要である。 						
⑤図書館機能の充実	B	a	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・ 県民の情報拠点、生涯学習拠点、知的ネットワークの核として県民に役立つ図書館づくりを目指し事業を実施している。 						
⑥博物館機能の充実	B	b	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・ 東日本大震災の影響により、中止になった企画展もあったが、企画展・常設展・普及事業とも前年度を上回る来館(場)者があった。 						
⑦高等教育機関との連携促進	B	c	概ね順調	B	c	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高等教育機関と公共図書館の所蔵資料の相互利用環境が整備できている。また、大学による講座、セミナーを図書館とのタイアップ事業として実施している。 						

2 「知」「徳」「体」のバランスの取れた学校教育の推進

(1) 学力向上の推進

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①学校と家庭が協働した学力向上	B	b	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・3年目となる「とっとり学力向上支援プロジェクト」をとおして、学校と家庭が協働して学力向上に取り組む事業を各市町村で実施している。 ・「基本的生活習慣の定着等による学力向上促進事業」については、取り組むPTAが新たに10校増えた。 						
②自らの将来に夢や目標を持ち、主体的に学習する児童生徒の育成	B	b	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・研修会・研究会において、目指す児童生徒像が「夢や希望」を意識したものになるように助言を進めている。 ・高等学校課事業及び学校裁量予算制度を活用した学校独自事業を実施し、主体的に学習する生徒の育成に取り組んでいる。 						
③基礎学力の確実な定着とさらなる伸長	B	a	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・「とっとり学力向上支援プロジェクト」や「未来を拓くスクラム教育」推進事業などをとおして、地域の実態に応じた学力向上の取組が進んできた。 ・「新時代を拓く学びの創造プロジェクト」で学力分析を行い、学力向上に向けた具体的な施策を検討した。 						
④教員の授業力向上	B	a	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・エキスパート教員を18名増員するとともに、年次計画に基づいて授業公開や研修を実施している。 ・エキスパート教員による研究授業、エキスパート教員育成事業、県外教員との授業実践・研究交流事業などをとおして、同一教科の教員同士が切磋琢磨し、授業力を向上させる機会が増加している。 						
⑤カリキュラム改善	B	b	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の全面実施に伴う小学校外国語活動等のカリキュラム整備とともに、校種間連携によるカリキュラム開発にも着手した。 ・専門高校において、関係機関と連携したカリキュラム改善の取組を促しており、これまで取り組んでいなかった学校も、取組に向けて検討している。 						
⑥児童生徒へ理科・科学やものづくりの楽しさや本質を伝える	B	b	概ね順調	B	c	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・理科教育支援員を9名配置した。「鳥取県科学技術教育研究優秀賞」事業で作品を募集中である。 ・今年度から物理、化学、情報の分野で「高校生科学セミナー」を開催し、高校での学習内容を超えた高いレベルの講義や実験・実習を実施している。 						

(2) 豊かな人間性、社会性の育成

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①道徳教育や人権教育の充実	B	b	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会において、新学習指導要領における道徳教育を周知した。 ・研究成果物の刊行に向け、計画どおり進行している。 						
②読書活動の推進	A	a	概ね順調	A	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・全校一斉の読書活動は小中ともに100%実施中である。全県悉皆の司書教諭連絡協議会を実施した。 ・子ども読書支援者養成事業は順調に実施中である。今年度養成した子ども読書アドバイザーが読書ボランティアや保護者の研修会に出向き、地域での読書活動支援の輪が広がっている。 ・県立高校21校で一斉読書を実施しており、そのうち15校が朝読書を行っている。 						
③体験活動・文化芸術活動の充実	B	a	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・韓国江原道との交流を再開し、派遣団を江原道教育庁に派遣した。 						

- ・各種事業とも順調に実施中である。
- ・研修旅行は約70%の学校で実施した。多くの学校が文化芸術活動支援事業を活用した。
- ・手作り教材や実際の赤ちゃんとふれあう体験学習等により命の大切さを具体的に実感ができ、性や将来の自分のライフプランについて考える機会となっている。

④不登校・いじめ問題等への取組	C	b	やや順調でない	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員に対する「不登校の未然防止に向けた県教育委員会メッセージ」の発信、不登校児童生徒の出現率が高い中学校区におけるスクールカウンセラー配置時間数の増及び管理職対象の不登校対策会議の開催による効果的な実践例の共有などの取組を実施し、各学校における指導及び対策の充実を図るなど、対策に取り組んだが、出現率は引き続き全国平均より高めの数値で推移しており、成果が十分に表れていない。 ・相談活動を丁寧に行い、関係機関との連携を深めながら、より適切な対応となるように努めている。また、不登校や中途退学の未然防止のための方法（hyper-QU、実態調査）の普及を計画通り推進している。 ・いじめについては、市町村教育委員会とも連携しながら実態把握に努めるとともに、出来るだけ早期に解決を図れるよう対応をしている。 						

(3) 健やかな心身の育成

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①学校体育の充実	B	a	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・武道実技講習会、体育実技講習会、教育課程研究集会を予定どおり実施する。新学習指導要領の小学校完全実施初年度、中学校完全実施前年度として、学習指導要領趣旨について周知すると共にその内容にそった学習のあり方について伝達することができた。 						
②健康教育の充実	B	a		B	b	
<ul style="list-style-type: none"> ・専門家やスクールヘルスリーダーを派遣し、児童生徒の心や性等の健康問題への対応を行った。 						
③性教育の充実	B	b	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・性教育・エイズ教育研修会を開催し、校内で性教育を推進していくための重要性や具体的な進め方について理解を深めることができた。 						
④薬物乱用防止教育の充実	B	b	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用防止教育への具体的な進め方について、研修会で理解を深めることができた。 						
⑤食育の推進	B	a	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭を中核とし、食育の推進を図ることができた。 ・各研修会で食に関する指導の指導力向上を図ることができた。 						

(4) 社会の進展に対応できる教育の推進

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①情報社会を主体的に生きる人材の育成	B	b	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の実態に応じた取組は進んでいる。 ・初任者研修などの経年研修及び計画した専門研修を実施し、情報モラル、ICT活用について資質向上を図った。 						
②環境教育の推進	B	b	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度既に5校がTEASⅡを取得した（目標：毎年2校）。 ・新規のTEAS取得校はない状況。学校の実態に合ったTEASの在り方について検討を進めている。 						
③鳥取県に愛着を持った人材の育成	B	b	概ね順調	B	c	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材や地域の素材をいかした学習活動について研修会で協議した。 						

④主体的に行動する人材の育成	B	c	概ね順調	B	c	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・学校裁量予算制度を活用して各学校が独自の取組を実施している。 ・道徳教育総合支援事業等を通して、夢や希望の実現に向けて努力する子どもの育成を進めている。 						

(5) 幼児教育の充実

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①幼児教育の充実	B	a	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連携に関する研修会を実施するとともに、カリキュラムの接続の必要性が認識されるなど、地域の実態に応じた取組が進んでいる。 ・幼稚園教育・保育士研修のあり方検討委員会で、県内の幼児教育現場の現状や課題について共通認識を図ることができた。 ・私立幼稚園への訪問指導を行うとともに、研修の見直しに着手した。 						
②子育て支援の充実	B	b	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育、園解放等の子育て支援活動に助成を実施した。 						

(6) 特別支援教育の充実

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①自立と社会参加の促進を目指した教育環境の整備	B	a	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・高等特別支援学校設置に向けて、選抜方針、教育内容について検討を進めている。 ・学校裁量予算（指導充実費）の目的に沿った取組の実施を働きかけている。 						
②特別支援学校のセンター的機能の推進	B	a	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい教育拠点において、高等学校への支援を開始。教育相談、通級指導等の体制の充実を進めている。 						
③幼稚園・保育所、小学校、中学校、高等学校での指導・支援の推進	B	a	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の充実を図るため、手引等を活用した研修会を開催した。 						
④「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を活用した指導の推進	B	a	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から高等学校への移行及び高等学校での支援を充実するためのシステム作りに向けた検討が必要である。 ・今年度、中高間で「個別の教育支援計画」や情報が引き継がれた事例が大幅に増加し、入学当初からの指導に活用されている。 						
⑤発達障がいを含む障がいのある児童生徒等の一貫した指導体制の確立と関係機関との連携の充実	C	a	やや順調でない	C	b	やや順調でない
<ul style="list-style-type: none"> ・中学校から高等学校への移行及び高等学校での支援を充実するためのシステム化を開始したところであり、取組の継続が必要である。 						
⑥移行支援の充実	B	b	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・ジョブコーチセミナーへの教員派遣及び就労サポーター等による職場開拓等を継続して実施した。 						
⑦教員の専門性の向上	B	a	やや順調でない	B	a	概ね順調

・特別支援学校における免許状保有率が微減しているが、免許法認定講習の対象者を広げることで、積極的な受講勧奨による参加者が増加している。						
⑧保護者支援の充実	B	b	概ね順調	B	b	概ね順調
・語る会の開催等により保護者等のニーズを把握した。福祉との連携による保護者の相談支援体制の整備の充実が必要である。						
⑨特別支援教育の普及啓発	C	b	やや順調でない	B	a	概ね順調
・保護者等広く一般県民を対象に開催している「特別支援教育を語る会」などで、参加者の減少・固定化の傾向が見られる。特別支援教育について、より広く普及啓発を進めるため、取組の現状及び効果を分析し、改善・充実することが必要である。						

3 学校教育を支える教育環境の充実

(1) 児童・生徒減少期における学校の在り方

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①公立小・中学校の在り方	B	a	/	B	a	/
・知事マニフェストに基づき、少人数学級の拡充に向けて、学級編制、定数改善等の国の動向を注視しながら、市町村教育委員会との協議を進めている。						
②今後の高等学校の在り方	C	b	/	B	c	/
・H24年度中に方針決定をすべきであったが、パブリックコメントの結果や、中山間地域における行政側の新たな動きを考慮する必要が生じたため、平成25年から30年度までの在り方に係る方針決定が遅れぎみである。						

(2) 教育現場の創意工夫を活かした特色ある学校運営の推進

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①県民に信頼される学校づくり	B	b	概ね順調	B	a	概ね順調
・すべての県立学校で学校自己評価、学校関係者評価を実施し、PDCAサイクルによる学校運営に取り組むとともに、第三者評価の本格実施により外部検証を行っている。						
②学校組織運営体制の充実	B	b	概ね順調	B	b	概ね順調
・副校長配置校の増等、新職の配置による効果がでてきている。 ・評価・育成制度も定着し、目標面談を通して職員のベクトル合わせが行われている。 ・評価・育成制度における被評価者用校内研修教材を全校に配布し、制度の実効性を高めた。						
③教職員の過重負担・多忙感	C	d	/	C	d	/
・東部、中部、西部の弁護士（各1名）と業務委託契約を締結し、学校問題に関する法律相談窓口を開設した。 ・H23、11月からノー残業デーの設定など時間外業務縮減に向けた取組の第1段階を開始し、まずは時間外業務縮減の雰囲気醸成や早期退職を実現するための業務の協力体制作りの促進を図ることとしたところだが、まだ学校によって取組状況に差がある。 ・県としての具体策は提示できたが、市町村教育委員会との連携による具体的な取組の実施には至っていない。 ・非常勤職員の配置や各学校における時間外業務縮減の取組の推進を働きかけてはいるものの、学校への要求課題等も増加する中で、成果が表れていない。教員の業務量が減少しない状況があるため、取組を推進するものの、早期には成果が表れにくい。						
④教職員の精神性疾患	C	b	やや順調でない	C	c	やや順調でない
・休職者数・新規休職者数ともに昨年度と比較し、増加傾向にあり、十分な成果が表れていない。 H23年度末時点での休職者数39名（H22年度末 31名、H21年度末 39名）						

(3) 使命感と実践力を備えた教職員の養成・確保・配置

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①教員の資質向上や指導力・授業力の向上	B	a	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・教員の公開授業等が進みつつあるところである。 ・ねらいを明確にした評価育成制度に係る研修と具体的取組についての情報交換を実施することができた。 ・他都道府県の現職教諭を対象とした「特別選考制度」を導入した。 ・免許更新制では、失効者を出さなかった昨年度と同様の取組を行っている。 ・国や県の動向や学校のニーズに応じて各種研修を実施し、教員の指導力向上を推進している。 ・エキスパート教員は年々増加している（H21年5名→H22年9名→H23年14名）。 ・エキスパート教員を育成する事業でも参加者の授業力向上の取組を進めている。 ・言語活動を位置づけた授業づくりについて年間を通じて継続的に取り組んだことにより、学校の授業改善に対する意識が高まり、具体的な取組が見られるようになってきた。 						

(4) 安全・安心な教育環境の整備

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①公立学校の耐震化	B	a	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・県立学校の耐震化はほぼ予定どおり進捗している。 						
②学校内外の安全確保	B	a	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全研修会を教職員対象に開催し、防災教育の充実と教職員の指導力の向上を図ることができた。 ・学校安全体制整備推進事業により、地域ぐるみによる子どもたちの安全確保を図ることができた。 						
③安全・安心な学校給食	B	a	/	B	a	/
<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食衛生管理講習会を開催し、調理場における衛生管理の徹底を図ることができた。 						
④学校図書館の整備の推進と教材整備の推進	B	a	順 調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・印刷して児童生徒に配布できるよう、リングファイル形式のものを県内小・中・特別支援学校に各3セットずつ配布するとともに、活用例を紹介した。 						
⑤修学資金の支援	B	a	/	B	a	/
<ul style="list-style-type: none"> ・奨学金を必要としている者への貸与を実施した。 						
⑥校庭の芝生化	B	b	/	/	/	/
<ul style="list-style-type: none"> ・県立学校のグラウンドの芝生化は着実に広がっている。 ・小学校の校庭芝生化は広がりつつあり、「鳥取方式」による校庭芝生化モデル校の創出を図り、校庭芝生化をさらに促進する。 						

(5) 私立学校への支援の充実

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①私立学校の振興	B	a	/	B	a	/
<ul style="list-style-type: none"> ・園の教育環境の維持向上に必要な経費に対して補助を実施した。 ・保護者の負担軽減を図るため、授業料の軽減を実施している学校に対して助成するとともに、学校の教育環境の維持向上に必要な経費に対して補助を実施した。 						
②学校経営の健全性の向上・入学者確保	B	a	/	B	a	/

<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の負担軽減を図るため、保育料の軽減を実施している幼稚園に対して助成を行った。 ・すべての中・高等学校において、情報公開を実施。自己評価については、ほとんどの学校で実施した。 						
③私立学校の耐震化	B	a	/	B	a	/
<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した園舎の改築工事（2園）に対して助成した。 ・老朽化した校舎の耐震改修（1校）に対して助成した。 						

4 文化・芸術の振興と文化財の保存・活用

(1) 文化・芸術活動の一層の振興

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①文化・芸術振興による地域の「創造性」の向上	B	a	/	B	a	/
<ul style="list-style-type: none"> ・アートスタート事業では、23年度は市町村への普及啓発の効果もあり、実施市町村数、団体数、事業数ともH22年度を上回るなど成果が出ている。ジュニア美術展覧会では、過去最高の出品数を記録するなど活動機会の拡充に寄与し、芸術鑑賞教室では、ノウハウを有する(財)鳥取県文化振興財団での事業実施に切り換え、より充実した鑑賞機会の提供を行った。また、本年は「鳥取県芸術活動コーディネーター」2名による教育現場の聞き取り等調査により、これまで把握できていなかった課題や現場ニーズ等を把握することができた。 						

(2) 文化財を大切にし、身近に感じ、親しむことができる地域づくり

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①文化財を大切にし、身近に感じ、親しむことができる地域づくり	B	b	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね計画どおりに事業を実施した。 						

5 スポーツの振興

(1) 心豊かで活動的な地域スポーツ社会の構築

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①少年期のスポーツ活動の適正化	B	b	/	C	c	/
<ul style="list-style-type: none"> ・啓発資料リーフレットを各学校及び加盟チーム数の多い競技団体に配布、学校用については、全教職員分を増刷して配布した。また、保護者への啓発として、とっとり夢ひろば9月号に記事を掲載した。 ・指導者講習会は、競技団体と連携して、10月2日にバスケットボール競技、11月26日にバレーボール競技、3月11日に軟式野球競技と、競技別に3競技を開催し、指導者、保護者等を対象に望ましい小学生スポーツの在り方について研修した。 						
②生涯スポーツ社会の実現	B	b	概ね順調	B	b	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・県体育協会と連携して、総合型地域スポーツクラブの訪問や連絡協議会の開催を行った。本年度は、東・中・西の地区別にも連絡協議会を開催し、情報交換を行うことで、各クラブの取組の活性化を図った。 ・未設置となっている地域において設立に向けた動きが見られ、クラブマネージャー研修会への参加や社会教育研究協議会で総合型について研修をする等、積極的な取組となってきた。 ・広域スポーツセンターの組織及び機能の見直しについては、検討中であり、推進が図れていない。 ・計画どおりに事業を実施している。 						
③トップアスリートの育成（競技力の向上）	B	c	やや順調でない	C	c	やや順調でない
<ul style="list-style-type: none"> ・H23年度に全競技で作成したジュニア期一貫指導体制プログラムは、一部の競技で成果が出はじめているものの、まだ全県下に浸透していない面もあり、系統的、総合的な強化に結びついていない。 						

6 鳥取県教育振興基本計画の推進に向けた体制づくり

(1) 県民との協働による開かれた教育行政の推進

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①県民とともに進める開かれた教育行政	B	a	/	B	a	/
<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会議の議事録、教育委員の活動状況やコラム等のホームページへの掲載、夢ひろばの発行など、教育情報の提供に努めた。 						
②教育問題等への迅速かつ的確な対応	B	a	/	B	a	/
<ul style="list-style-type: none"> ・教育の諸問題について意見等を聞くため、教育審議会（全体会1回、分科会4回）を開催した。 ・教育委員による学校訪問の実施等により、現場の課題やニーズの把握に努めた。 						
③鳥取県教育振興基本計画の確実な推進	B	a	やや順調でない	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・「H22年度教育行政の点検及び評価」の実施や「H23年度アクションプラン」の中間評価を踏まえた予算要求など、PDCAサイクルの確立に向けた取組を行った。 						

(2) 市町村、国、高等教育機関など関係機関との連携・協力の推進

【 目指すところ 】	H23実績			H22実績		
	自己評価	関係者評価	数値目標	自己評価	関係者評価	数値目標
①市町村との連携・協力体制の充実	B	a	概ね順調	B	a	概ね順調
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な連絡協議会や教育行政情報の提供等により、情報共有に努めるとともに、資質向上の支援のための教育委員研修会を実施した。 ・市町村、局との連携による社会教育の研修会の開催ができた。 						
②高等教育機関との連携・協力の一層の推進	B	b	/	B	b	/
<ul style="list-style-type: none"> ・「学校支援窓口一覧」をホームページに掲示し、県内学校に情報提供するとともに、鳥取大学や鳥根大学と意見交換を行い、情報共有を図った。 						

【参考：数値目標一覧】

1 生涯にわたって自ら学び、社会全体で子どもたちを育む体制づくり

【数値目標（平成25年度）】	20 (実績)	21 (実績)	22 (実績)	23 (実績)		24 (目標)	25 (最終目標)
▽心とからだいきいきキャンペーンの保護者認知(実施)率【再掲1-(2)】	41.3% (小中高齢)	71.2% (幼保のみ)	68.6% (幼保のみ)	64.3% (幼保のみ)	↘	就学前・小学校を重点実施	100%
▽自治会単位の「人権学習会(小地域懇談会)」実施市町村	18市町村	19市町村	19市町村	18市町	↘	→	全市町村 (19市町村)
▽「鳥取県家庭教育推進協力企業」認定企業数【再掲1-(2)】	184社 36.8%	253社 50.6%	416社 83.2%	533社 106.6%	↑	→	500社
▽学校支援ボランティア事業実施市町村 ※()は学校支援地域本部設置数	2市町村 (2箇所)	5市町村 (5箇所)	7市町村 (7箇所)	12市町村 (6箇所)	↗	15市町村	16市町村
▽放課後子ども教室設置市町村数	9市町村	10市町村	11市町村	11市町村	→	→	14市町村
・〔東部地区〕学社連携の取組を行う公民館数	2館	4館	6館	8館	↗		10館
・〔中部地区〕学社連携推進モデル地域の指定	—	3市町 60%	3市町 60%	3市町 60%	→	→	各市町5地域
・〔西部地区〕学校・家庭・地域が連携した取組を実施している市町村実施率	—	5市町村 56%	9市町村 100%	9市町村 100%	↑	→	100%
・〔西部地区〕子どもを中心とした地域の教育力の向上に向けた具体的取組を実施している市町村実施率	—	5市町村 56%	9市町村 100%	9市町村 100%	↑	→	100%
▽とっとりマスター認定者数	1人	4人	6人	9人	↗	→	10人
▽県立博物館の入館者数(6.1月:H19)	8.3万人	6.7万人	9.4万人	9.9万人	↑	→	継続
▽公立図書館の個人貸出冊数 (人口一人当たり) (4.65冊:H19)	4.8冊 (28位)	5.0冊 (28位)	5.1冊 (26位)	5.2冊	↑	5.2冊	5.2冊 (圏15位以内)
・船上山少年自然の家利用者数 ・船上山少年自然の家利用団体数 ・船上山少年自然の家目標十分達成率	27,628人 321団体 65%	27,154人 339団体 65%	27,674人 323団体 58%	26,147人 291団体 63%	↘ ↘ ↑	27,000人 300団体 61%	27,000人 300団体 62%
・大山青年の家利用者数(幼児)	1,537人	2,052人	2,192人	2,295人	↑	2,000人	2,000人

2 「知」「徳」「体」のバランスの取れた学校教育の推進

【数値目標（平成25年度）】	20 (実績)	21 (実績)	22 (実績)	23 (実績)		24 (目標)	25 (最終目標)
▽大学・短大等進学率(43.9%:H19年)	43.6%	43.6%	45.0%	43.9%	↘	→	50.0%(H30)
▽学校以外で平日60分以上学習(宿題や予習復習)している児童生徒の割合【再掲1-(2)】	小学6年 64.0%	小学6年 56.3%	小学6年 57.5%	小学6年 ×	→	→	60%
	中学3年 64.0%	中学3年 61.8%	中学3年 65.6%	中学3年 ×	→	→	70%
▽学力の二極化の傾向の解消(全国学力・学習状況調査及び高校入試結果で評価)	二極化傾向有り	二極化傾向有り	二極化傾向有り	(高校入試) 二極化傾向有り	→	→	二極化解消
▽(小中)将来の夢や目標を持っている児童生徒の増加(全国学力・学習状況調査)	小学6年 81.2%	小学6年 84.7%	小学6年 85.9%	小学6年 ×	→	→	対前年増
	中学3年 69.5%	中学3年 69.1%	中学3年 68.9%	中学3年 ×	→	→	対前年増
(誠)進路実現のため目標に向かって努力している生徒の増加(高校生アンケート)	高校2年 45.2%	高校2年 ※-	高校2年 47.3%	高校2年 ※-	→	→	対前年増
▽(小中)国語、算数(数学)の勉強は好きだという項目の肯定的な回答の平均値の増加(全国学力・学習状況調査で評価)	小学6年 59.8%	小学6年 62.0%	小学6年 61.6%	小学6年 ×	→	→	対前年増
	中学3年 51.5%	中学3年 53.2%	中学3年 53.4%	中学3年 ×	→	→	対前年増
(誠)学ぶ意欲・態度に関する項目の肯定的な回答の増加(高校生アンケート)	高校2年 38.4%	高校2年 ※-	高校2年 38.2%	高校2年 ※-	→	→	対前年増
・〔東部地区〕「学ぶ意欲の向上」の取組推進学校数	6校	11校	16校	24校	↑	-	20校
・〔東部地区〕総合的な学習の時間のカリキュラムの作成率	小40% 中30%	小80% 中60%	小100% 中70%	小100% 中90%	↑ ↑	→	100%
・〔東部地区〕外国語活動のカリキュラムの作成率	20%	80%	100%	100%	↑	→	100%
▽小中学校で「道徳の時間の授業公開」(全て又は一部小学校:99.3%(H19)の学級で実施)中学校:100%(H19)	100%	99.3%	95.7%	100%	↑	継続 100%	継続
	100%	93.3%	98.3%	96.7%	↘	→	→
▽朝の一斉読書(朝読)の実施率	小学校: 94.6%	小学校: 97.0%	小学校: 97.0%	小学校: ※-	→	→	100%
	中学校: 95.0%	中学校: 94.0%	中学校: 95.0%	中学校: ※-	→	→	100%
*高校は一斉読書の実施率	高校: 45.8%	高校: 55.0%	高校: 87.5%	高校: 87.5%	↑	→	60%
▽1日に全く読書をしない児童生徒	小学6年: 16.7%	小学6年: 15.8%	小学6年: 15.5%	小学6年: ×	→	→	限りなく0に 近づける
	中学3年: 30.8%	中学3年: 31.3%	中学3年: 29.3%	中学3年: ×	→	→	→
▽児童生徒が文化芸術に触れる機会を持つように努める⇒2年に1回以上【再掲4-(1)】(現状71.8%(H18及び19に文化芸術に触れた学校の割合))	-%	小88% 中82%	-%	小97.8% 中83.3%	↑ ↑	→	100% ※学校における鑑賞教室等に関する実態調査(H19)
▽小・中学校とも不登校の出現率の減 H19 不登校出現率 小学校0.43% 中学校2.53% 高校1.52%	小0.40% 中2.46% 高1.44%	小0.36% 中2.83% 高1.55%	小0.33% 中3.14% 高1.61%	H24.8月 公表	→	→	全国平均を下 回るとともに、 限りなく0に 近づける
・〔東部地区〕不登校児童生徒への組織的対応が十分できた学校の割合	60%	80%	85%	90%	↑	100%	100%(自己評価)

※高校生アンケートは2年に1回実施のため、実績は隔年調査。

※学校における鑑賞教室等に関する実態調査は5年に1回の調査のため、H21実績からの「学校教育成果と課題」で実態を把握した。H22は未調査。H23は「学校教育実施状況調査」から。

※「×」はH23全国学力・学習状況調査が実施されなかったため、データなし。

※朝の一斉読書(朝読)の実施率は、H22から学校図書館現状調査が隔年実施となったため、H23のデータなし。

【数値目標（平成25年度）】	20 (実績)	21 (実績)	22 (実績)	23 (実績)		24 (目標)	25 (最終目標)	
▽体力調査結果を親世代(S53～57)の平均値に近づける								
<50m走> 親世代S53～S57(平均)			秒 %	秒 %				
小5男 9.05秒(100%)	9.28秒	9.36秒	9.36(97)	9.27(97)	↗		9.23秒(98%)	
小5女 9.26秒(100%)	9.59秒	9.54秒	9.57(97)	9.61(97)	↘		9.45秒(98%)	
中2男 7.86秒(100%)	8.01秒	7.92秒	7.93(99)	7.93(99)	→		7.86秒(100%)	
中2女 8.65秒(100%)	8.80秒	8.70秒	8.83(98)	8.78(98)	↗		8.65秒(100%)	
<ボール投げ>親世代S53～S57(平均)			m %	m %				
小5男 31.0m(100%)	27.41m	25.67m	26.00(84)	25.88(83)	↘		27.9m(90%)	
小5女 17.6m(100%)	15.27m	14.92m	15.37(88)	15.01(85)	↘		15.8m(90%)	
中2男 22.3m(100%)	21.69m	20.94m	20.92(93)	20.85(93)	→		22.3m(100%)	
中2女 14.5m(100%)	13.35m	13.84m	13.35(92)	13.12(90)	↘		14.5m(100%)	
▽校内性教育推進委員会設置率	小学校 中学校 高校 特別支援学校	43% 75% 100% 100%	46% 80% 100% 100%	51% 73% 96% 100%	56% 82% 100% 100%	↗ ↗ ↑ ↑	→ → → →	100% 100% 100% 継続
▽中学、高校における薬物乱用防止教室の開催率	中学校 高校	76.7% 83.3%	70% 85%	82% 79%	84% 83%	↗ ↗	→ →	100% 100%
▽食に関する指導年間計画の作成率	小学校 中学校 特別支援学校	68% 48% 33%	64% 37% 29%	73% 44% 44%	82% 45% 44%	↗ ↗ →	→ → →	100% 100% 100%
▽朝食喫食率【再掲1-(2)】	小学5年 中学2年 高校2年	90.3% 89.6% 79.8%	91.2% 89.5% 84.6%	90.7% 86.7% 81.2%	99.5% 99.2% 96.5%	↗ ↗ ↗	→ → →	100% 100% 100%
▽学校給食用食材の県内産使用率		54%	57%	62%	66%	↑	→	60%以上で 向上
▽栄養教諭の市町村への配置		3町	9市町	11市町	16市町	↑	→	継続中
▽情報モラル教育の実施	小学校：61.5%(H19) 中学校：80.0%(H19) 高校：100%(H19)	※- % ※- % 100 %	87.1% 95.0% 100%	90.6% 96.7% 100%	95.7% 96.7% 100%	↗ → ↑	→ → →	100% 100% 継続
▽環境教育全体計画の作成及び改善	小学校：48.6%(H19) 中学校：35.0%(H19)	54.6% 38.3%	58.3% 31.7%	60.4% 40.0%	61.2% 41.7%	↗ ↗	90% 90%	100% 100%
▽学校のTEASⅡ・Ⅲ種（鳥取県版環境管理システム）取得の促進	小学校：12.2%(H19) 中学校：15.0%(H19) 高校：41.7%(H19) 特別支援学校：28.6%(H19)	11.4 % 13.3 % 54.2 % 57.1 %	13.7% 15% 62.5% 100%	15.1% 18.3% 70.8% 100%	15.1% 15.0% 91.7% 100%	→ ↘ ↗ ↑	22% 27% 100% →	25% 30% 100% 100%

【数値目標（平成25年度）】	20 (実績)	21 (実績)	22 (実績)	23 (実績)		24 (目標)	25 (最終目標)
全国学力学習状況調査質問紙調査より							
▽「新聞やテレビのニュースなどに興味を持つ児童生徒の増加」 小学6年： 中学3年：	61.0% 63.1%	65.1% 66.4%	64.0% 63.1%	×			肯定的な回答率の増加
▽「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある児童生徒の増加」 小学6年： 中学3年：	43.4% 20.6%	43.4% 21.6%	— % — %	×			肯定的な回答率の増加 (H22調査なし)
▽「人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の増加」 小学6年： 中学3年：	93.0% 90.5%	93.3% 90.9%	95.3% 92.7%	×			肯定的な回答率の増加
▽「人が困っているとき、進んで助ける児童生徒の増加」 小学6年： 中学3年：	77.5% 71.7%	81.3% 71.0%	82.4% 73.6%	×			肯定的な回答率の増加
▽「今住んでいる地域の行事に参加する児童生徒の増加」 小学6年： 中学3年：	74.8% 43.5%	76.1% 43.7%	76.1% 43.9%	×			肯定的な回答率の増加
▽小学校教員による保育所・幼稚園での保育体験研修の実施	3市町村	6市町村	8市町村	11市町村	↗		全市町村 (19市町村)
▽幼稚園、保育所、小学校の連絡協議会の設置や、教職員の交流の機会の設定	※—	※—	※—	79.1%	↗		全ての小学校区
▽「子どもの育ちを支えるための資料（保育所児童保育要録）」の作成と小学校への送付 (平成22年度以降に就学する児童から対象)	—	100%	100%	100%	↑	100%	100%
▽認定こども園の設置	0施設	0施設	0施設	4施設	↗		9施設(H26)
▽個別の教育支援計画の作成 (H20公立幼・小・中・高)	27.3%	58.6%	75.2%	80.3%	↑		80%
▽個別の指導計画の作成 (H20公立幼・小・中・高)	84.9%	89.4%	90.2%	95.3%	↗		100%
▽特別支援学校高等部（専攻科含む）卒業生の就職希望者の就職率の向上 (H19:50%)	71.4%	70.8%	79.1%	88.9%	↑		75%以上
(特別支援学校高等部（専攻科含む）卒業生の就職率の向上(H19:17.5%))	28.0%	30.1%	28.3%	42.5%	↑		30%以上
▽特別支援学校教職員の該当障がい種に関する特別支援学校免許状保有率の向上	79%	78%	74.3%	71.7%	↘		90%以上
▽特別支援学級教員の該当障がい種に関する特別支援学校免許状保有率の向上	38%	39.5%	41.2%	38.7%	↘		40%以上

※「幼稚園、保育所、小学校の連絡協議会の設置や、教職員の交流の機会の設定」のH20, 21, 22実績については、未調査であり、H23実績からは「学校教育実施状況調査」で実態を把握する予定。

※「×」はH23全国学力・学習状況調査が実施されなかったため、データなし。

3 学校教育を支える教育環境の充実

【数値目標（平成25年度）】	20 (実績)	21 (実績)	22 (実績)	23 (実績)		24 (目標)	25 (最終目標)		
▽学校評議員制度(類似制度を含む)の設置率 ＜H19末＞幼稚園：44.4%	6園 66.7%	7園 77.8%	7園 ※87.5%	7園 100%	↑	→	100%		
小学校：95.3%	141校 95.3%	136校 ※97.8%	138校 99.3%	138校 99.3%	→	→	100%		
中学校：93.3%	58校 96.7%	58校 96.7%	59校 98.3%	59校 98.3%	→	→	100%		
高校：100%	100%	100%	100%	100%	↑	→	継続		
特別支援学校：100%	100%	100%	100%	100%	↑	→	継続		
学校評価制度									
▽自己評価	実施率	幼稚園：75%	100%	100%	87.5%	100%	↑	→	100%
▽自己評価	公表率	幼稚園：33.3%	100%	100%	87.5%	85.7%	↓	→	100%
▽自己評価	公表率	小学校：33.8%	100%	100%	100%	97.8%	↓	→	100%
▽自己評価	公表率	中学校：14.8%	100%	100%	100%	96.7%	↓	→	100%
▽自己評価	公表率	県立学校：100%	100%	100%	100%	100%	↑	→	継続
▽学校関係者評価	実施率	幼稚園：0%	33%	67%	87.5%	100%	↑	100%	100%
▽学校関係者評価	公表率	幼稚園：0%	33%	56%	75.0%	71.4%	↓	100%	100%
▽学校関係者評価	公表率	小学校：36.3%	57%	57%	60.7%	78.6%	↑	→	100%
▽学校関係者評価	公表率	中学校：23.1%	50%	55%	63.3%	66.1%	↑	→	100%
▽学校関係者評価	公表率	県立学校：100%	100%	100%	100%	100%	↑	→	継続
・精神性疾患による休職者数の出現率は全国平均を下回るとともに休職者数は19年度の50%減とする(H19:37人)	100%	105%	84%	105%	↓	60%	50%減		
	37人	39人	31人	39人		22人	19人減		
〔西部地区〕									
・セミナーごとの学校参加率	20%	20%	19%	事業実施のため数値			60%		
・研修内容を学校経営や校内研究等で活用している研修成果率(セミナー後の追跡調査及び学校訪問等での聴き取りを実施)	50%	50%	32%	目標削除			80%		
			※参加人数は増加						
▽公立学校の耐震化率の向上									
高校：47.0%(H20.4)	50.6%	53.6%	68.8%	78.1%	↑	→	90%		
特別支援学校：82.6%(H20.4)	84.8%	97.8%	100%	100%	↑	→	100%		
小中学校：58.7%(H20.4)	62.9%	65.7%	72.1%	(H24.8頃)	→	→	80%		
幼稚園：55.6%(H20.4)	55.6%	66.7%	50.0%	確定予定)	→	→	100%		
▽小学校での学校地域安全マップ作成率	82%	76%	81%	89%	↑	→	90%		
・学校安全に関するマニュアルの作成率	小学校：92.7%	85.0%	100%	100%	↑	→	継続		
・学校安全に関するマニュアルの作成率	中学校：80.3%	80.0%	95%	100%	↑	→	継続		
・学校安全に関するマニュアルの作成率	高校：95.8%	80.8%	100%	100%	↑	→	継続		
・学校安全に関するマニュアルの作成率	特別支援学校：100%	100%	100%	100%	↑	→	継続		
・修学資金の支援(奨学資金の貸与財源の一部となる返還未収金の徴収を強化し、収納額の向上を図る。奨学資金収納額4.9億円)	3.2億	3.7億	4.2億	4.6億	↑	4.7億	4.9億		

※「学校評議員制度(類似制度を含む)の設置率」に係る小学校のH21実績については、分母となる学校が減ったことと新規に設置した学校が増えたこと等により、H20より設置率が増加している。
また、幼稚園のH22実績についてはH21実績と同数であるが、分母となる学校が減ったことにより、H21より設置率が増加している。

【数値目標（平成25年度）】	20 (実績)	21 (実績)	22 (実績)	23 (実績)		24 (目標)	25 (最終目標)
・私立中・高等学校（7校）の学校関係者評価実施率	71.4%	85.7%	85.7%	85.7%	→	100%	100%
・私立幼稚園（28園）における学校関係者評価の実施率	0%	39.3%	35.7%	53.6%	↗	75.0%	100%

4 文化・芸術の振興と文化財の保存・活用

【数値目標（平成25年度）】	20 (実績)	21 (実績)	22 (実績)	23 (実績)		24 (目標)	25 (最終目標)
▽県指定文化財の新規指定件数	3件	4件	12件	7件	↑	3件	合計15件
・妻木晩田遺跡来場者数	31,895人	26,211人	38,198人	35,125人	↘	50,000人	史跡等総合整備活用推進事業が終了するH24から年間5万人を目指す。
・青谷上寺地遺跡展示館来場者数	10,321人	8,195人	7,465人	7,801人	↗	18,000人	20,000人

5 スポーツの振興

【数値目標（平成25年度）】	20 (実績)	21 (実績)	22 (実績)	23 (実績)		24 (目標)	25 (最終目標)
▽総合型地域スポーツクラブの設置	旧20市町村 52%	旧21市町村 54%	旧22市町村 57%	旧22市町村 57%	→	旧30市町村 77%	旧39市町村 100% (H28)
▽県民(成人)の運動・スポーツ実施率 平成16年度実績(44.3%)	直近調査 はH16	51.7%	直近調査 はH21	直近調査 はH21	→	→	60%以上
▽国民体育大会	46位	47位	46位	44位	↗	→	40位台前半 (常時30位台)

6 鳥取県教育振興基本計画の推進に向けた体制づくり

【数値目標（平成25年度）】	20 (実績)	21 (実績)	22 (実績)	23 (実績)		24 (目標)	25 (最終目標)
▽鳥取県教育振興基本計画の数値目標の達成率	—%	26.7%	29.9%	37.4%	↗	→	100%
▽市町村教育委員会の「指導主事」配置率	17市町村	17市町村	19市町村	19市町村	↑	19市町村	全市町村 (19市町村)